

ひめだ高松ニュース

日本共産党 和歌山市委員長

NO.1278

20.1.28

まもなく2月定例会市議会が

2月定例会市議会の日程案などを決める議会運営委員会が、2月12日(水)に開かれることになりました。よって2月定例会市議会は19日(木)から始まります。12日の午後には全員協議会でも市議から2021年度予算内示が行われる予定です。

市民世論調査の速報値届く

市・広報聴課から19日(水)に年度市民世論調査の速報値が届きました。今回は、まち・ひと・しごと創生、自殺対策、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭、家庭教育支援、歴史まちづくり

くり、災害対策、防犯対策、在宅医療、健康、スポーツ、やってみたいスポーツやスポーツ施設、身の回りの状況や考え、市の取り組みに対する満足度・重要度について調査しています。

歩くときは道路側にカバンを持たない21.7%、⑦玄関や窓にはカギを二重にしている20.2%、⑧地域の犯罪発生状況に注意している19.1%、⑨見守り活動や近所の人への挨拶など不

防犯対策に心がけてほしい

防犯対策について、日常の生活で心がけてほしいことは何ですか? (複数回答)

- ①カギは少しの時間でも必ず施錠している65.6%
- ②明るい道を通る43.7%
- ③門前などの点灯40.5%
- ④自動車内には荷物を置かない36.4%
- ⑤啓発資料やニュースなどをよく確認している23.9%
- ⑥道を歩くときは道路側にカバンを持たない21.7%
- ⑦玄関や窓にはカギを二重にしている20.2%
- ⑧地域の犯罪発生状況に注意している19.1%
- ⑨見守り活動や近所の人への挨拶など不

防犯対策に心がけてほしい環境づくりは、14.9%、⑩自転車のカゴにはひったくり防止のカバーやネット

今週のフツータマ (その224)

ピアノ、マラソン、相撲
日本共産党県委員会
新春の集いでピアノ演奏を聞くうちに、なぜか涙が出てきました。ピアノで泣くのは人生初経験。日曜日の大阪国際女子マラソン。東京五輪の残り枠をめざして、松田瑞生選手が果敢な力走で五輪代表の最低条件となった記録より35秒短いタイムで優勝。松田選手と母さんや山中監督の涙にもし泣き。大相撲

まつけている3.4%、⑪自転車やオートバイに盗難防止装置をつけている4%、⑫自転車にはカギを2つ以上つけている37.7%となっています。

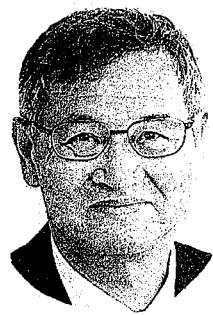
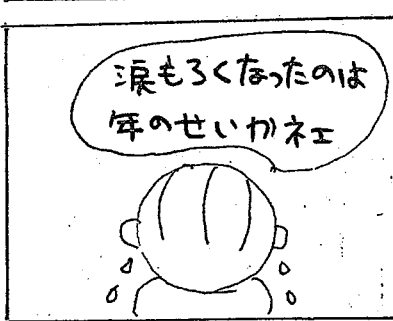
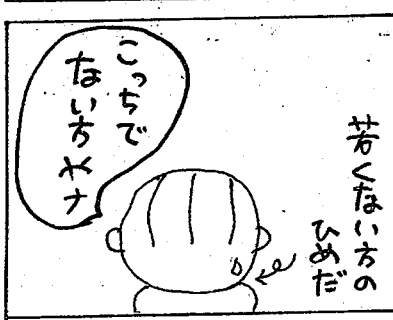
千秋楽では、1敗で単独トップの徳勝龍が大関の貴景勝文堂との寄り切りで初優勝。勝った瞬間の徳勝龍の大泣きに、またも、もらい泣きです。マラソンや大相撲で涙が出たのも初めてです。「なぜ年を重ねると涙もろくなる?」「チコちゃん」によると「脳のブレイキが緩むから」だそうです。そうかもと「若くない方のひめだ」を噛みしめた1週間でした。

フツータマ



(1061)

県立新卒の集いで
自衛隊の練習で



ひめだ高松

日本共産党 新春のついで

本気の共闘 実現がすべし

一月二十四日(金)夜、日本共産党和歌山県委員会が、アベノオムツの国で新春のついでを開きました。

榑本文郎県委員長、坂口如美子和歌山市議の司会で、ついでは大川求実さんの「アノオムツ」が始まりました。下角力県委員長はあこがれ、榑本文郎県委員長はあこがれ、アノオムツの会を迷げ回るアベ政権を「政権末期」と批判し、和歌山で本気の共闘を実現し自民党の牙城を崩壊と呼びかけました。

宮本たけし前参院議員は、昨年の参院選で高知県知事選、現在たたかわれている京都府知事選の状況を報告し、「市民と野党の共闘こそ未来がある」と強調。希望ある政治を實現するため「和歌山で新しい市民と野党の共闘をくり開こう」と訴えました。

野党統一候補として参院選をたたかった藤井幹雄弁護士、社民党連連の東山昭久代表代行、新社会党県本部の小谷英治連連会長、市民連合の島くみこさんはじめ大勢の方々がおそろい、アベ政権の危険性などについて、また和歌山のカジノ(エロ)計画について共闘しようと呼びました。ついでに終了後に宮本たけしさんを囲んで共闘議員で記念撮影をしました。

ごんごんちは 日本共産党です



気候危機を首指

気候変動がもたらす地球の危機は、スイスのダボスで24日まで開かれた世界経済フォーラム年次総会が主要テーマになるなど、2020年以降が

国際社会で大議論になっています。今年、地球温暖化対策の国際的枠組みである「パリ協定」が本格的に発効する年です。温室効果ガス排出の「実質ゼロ」に向けて世界の取り組みが緊急性を増している中、この課題に目を向け続けるアベ政権の姿勢が一層と浮き彫りになっています。

各国が50年までに温室効果ガスの排出を「実質ゼロ」にしようとしているとき、アベ首相は20日の施政方針演説で50年までに温室効果ガス80%削減の実行に触れただけです。アベ政権は、石炭火力発電所の新増設を推進する政策も変える姿勢がありません。

潮流

1.24日(日) 幸せとは何だろう。個人や文化、環境によって思い描くもの

ま水育っても、教育や福祉を受けられる機会は平等であって最低限の生活が保障されている。そんな安心感やバランスのとれたライフスタイルが、域内市民の書き手

それが何であれ、選択の自由があり、有意義な人生を送れる国。世界幸福度ランキングで2年連続一位の北欧フィンランド。若く暮らして、同国大使館の広報に携わる坂内都都子さんは、自分らしく生かすにける国だと感じています。人生のすまじきな場面を確保が狭まったり、窮屈に感じたりする人が少ないと、たとえば働き方。コワーキングスペースが注目を集められ、夕方4時を過ぎれば帰宅。夏休みは1カ月。肩書や学歴、年齢

女性別にこだわらない職場。ゆとりある労働は仕事への意欲を高め、一人当たりのGDPは日本の1.25倍にも。どんな環境や地域に生まれるか

最も弱い立場の市民がどう生活できるかによって

はかられる。

赤旗 日刊3,497円(税別) 930円(月)